

特定外来生物 ツマアカスズメバチに 注意



ツマアカスズメバチ

木やビルの高い位置に在来のスズメバチより大きな巣をつくります。在来種以上の人への影響はないとされていますが、発見したら連絡してください。

九州各地で発見されています（福岡県内では、北九州市・福岡市・久山町）。駆除は、害虫駆除業者などに依頼してください。

●連絡と問い合わせ先

循環型社会推進課生活環境・最終処分場担当

☎(580)1887

パートナーシップのまちづくり 市民アンケートに協力してください

現在、市では、地域課題の解決に向けて、市民と行政の共働によるまちづくりの方針を定めた「コミュニティ構想2022」（計画期間 平成29年度～令和5年度）に基づき、さまざまな取り組みを進めています。

この計画の中間評価を行うにあたって、市民の皆さんが日頃、地域活動やボランティア活動などに対して感じていることや意見を聞く「パートナーシップのまちづくり市民アンケート調査」を実施し

ています。

7月上旬に、市内在住の満16歳以上の人から無作為に抽出した1500人にアンケート用紙を送りましたので、回答をお願いします。

●回答期限 7月17日（祝・月）

●問い合わせ先

コミュニティ文化課共働推進担当
☎(580)1836



あけてみよう！ 歴史のとびら かつて、大野の町にアメリカがあった

166



〈板付基地を掘る〉

今回は地下に眠る板付基地春日原住宅地区の痕跡について紹介します。

令和3年の夏、JR大野城駅西口の目の前で発掘調査を行いました。この場所は、春日原住宅地区の一角に当たり、当時使われていた木製の鳥居型電柱が2基、残されていました。

調査を進めると、コンクリート製の配管や5mもの金属製タンクなど、住宅地区に関連するものが次々と顔を出しました。これらの役割を明らかにするため、当時の建物配置図と照らし合わせてみることに。するとタンクが見つかった場所は、ガソリンスタンドと書かれた建物にぴたりと一致しました。配管は当時の道路の下に埋められており、雨水や下水を流すためのものとみられます。

また、家族用住宅が立ち並んでいた場所では、細長い配管が見つかりました。これは、セントラルヒーティングと呼ばれる暖房システムに使われた配管だと分かりました。セントラルヒーティングは、ボイラーで発生させた蒸気が各部屋の配管をめぐることで暖をとる、欧米の一般的な暖房スタイルで

す。よく見ると、配管は断熱用のタールで覆われていました。

住宅地区の地下の姿はこれまでほとんど知られておらず、さまざまなインフラが整備されていたことが明らかになりました。

さて、冒頭に紹介した2基の鳥居型電柱のうち1基は、開発に伴い解体されてしまいました。住宅地区の面影は年々失われつつありますが、地下には当時の思い出がひっそりと眠っています。



鳥居型電柱



金属製タンク

●問い合わせ先

心のふるさと館文化財担当
☎(558)2206